所　報

曹洞宗山形県第二宗務所
〒993－0052
山形県長井市新町10－6
TEL0238-83-3369 FAX0238-83-3453
発行責任者　鈴　木　桂　樹
印　　刷　㈱川島印刷
TEL0238-21-5511

永平寺　龍門の紅葉

年頭にあたって

宗務所長　**鈴木　桂樹**

平成二十九年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げ、常日頃、宗務所事業に、ご理解、ご協力賜り深く感謝申し上げます。

就任以来、二年が過ぎ役職員も業務遂行に大分慣れてきました。昨年の事業では、本山研修会を二泊三日の日程に変更し、永平寺を会場に実施致しました。時間に余裕がもて、有意義な研修であったと高評でした。檀信徒地方研修会では、「孤立・自死問題」を焦点に講演いただき、皆、熱心に聞き入っておられ関心の高さを感じました。十一月九日には、東北管区主催「東日本大震災七回忌慰霊法要」が、仙台サンプラザホールを会場に大本山總持寺貫主、江川禅師様御親修のもと「歎佛法会」にて厳修され、二千人が参列し犠牲者のご冥福をお祈り致しました。

今、少子高齢化、人口減少、過疎化、核家族化等により寺院を取り巻く状況が地方と都市部では大きな格差が生じています。ある統計によると二十年後には、曹洞宗寺院の四〇%が消滅すると予測されています。更に信仰心が薄くなることによる宗教離れが進んでいます。宗門として僧侶としてどんな対策を講ずるかが問われています。宗務所としても今後何が出来るかを真剣に考え、取り組んでいきたいと思います。今後とも、ご指導ご協力をよろしくお願い致します。

合　掌

平成二十八年度教化事業

寺族研修会

六月八日
第五教区瑞岩寺
二十八名参加

十六年前から「大人も子供も森で遊べ」をテーマに自然体験活動を中心にした「葉っぱ塾」を主宰している八木文明さん（長井市中道）に原発事故で外遊びが出来ない福島の子供たちを招いての支援活動から大自然の教育力、癒し力をお話しして頂きました。改めて自然の持つ豊かさを感じながらも、生まれ育ったふる里に帰れない子供たち、放射能の不安を抱えながら毎日を送る子供たち、そして避難したところでそのことを理由にいじめにあっている子供たちのことを思わずにはいられなかった。終了後、八木さんの活動を支援し自分たちの地域活動に活かしたいと駆け寄る寺族さん方にこれからのお寺の姿を感じ勇気づけられました。

午後は本庁派遣講師の久保田永俊師から身心を癒すお香の世界のお話を頂き、実際に様々なお香を調合しての匂い袋の作り方を教えて頂きました。

福島の子ども支援と葉っぱ塾の活動　八木文明氏

匂い袋を作ろう　久保田永俊老師

特派布教巡回

六月十一日～十九日
福島県　長楽寺住職　中野　重孝　老師

①瑞岩寺　⑨照陽寺　⑩岩松寺　⑤太松院　③宝昌寺
⑥高伝寺　⑧慶昌寺　②永雲寺　②蓬莱院（婦人のつどい）

お隣の福島市から長楽寺住職、中野重孝師をお招きし各教区寺院を会場に、告諭にある、「震災、大津波、原発事故、戦争（紛争）、貧困、格差の拡大、自死、いじめ等の不安がひろがる中で、〝殺すことなかれ、殺させるなかれ〟のみ教えのもと、互いに慈しみ合う争いのない社会、原子力に頼らない社会、そして〝いのち〟を生かしあう社会の実現を願っての、〝ともに願い、ともに寄り添い、ともに歩む〟願楽（がんぎょう）」の実践を説かれました。五年たっての福島の現状と課題も含みながら分かりやすく私たち仏教徒としての生き方を話されました。特派布教講習会については各教区の状況の違いもありますが、役員のみの参加の形や合併によって役員の人数が増え会場に入りきれない等の問題を今後どうするのか、皆様方からのご意見をお寄せ下さい。

子ども禅の集い

八月二日～三日
第一教区桃源院
三十八名参加

良寛さんの時代からお寺の風景と子どもたちの姿は合うもので今年度も三十八名の参加で青少年教化員のお兄さんたちとの夏の二日間を過ごしました。

子ども禅の集いに参加して

北部小　六年　村田龍栄

ぼくは八月に行われた子ども禅の集いに参加しました。

この禅の集いに参加して思ったことがあります。ぼくは、弓道をやっているのですが、坐禅をしているときの集中力と弓道をやっているときの集中力が似ていると思いました。どんなことにも、平常心でのぞむことが大切なのだと思いました。

先日、ぼくは得度をし、お坊さんの仲間入りをしました。禅の集いで学んだことをいかしてこれからがんばっていきたいです。

子ども禅のつどいに参加して

万世小　四年　神保志保

上ごうのとうげん院というお寺で、八月二日・三日の子ども禅のつどいに参加しました。今年で三回目です。参加人数は、やく四十名でした。スポ少のK・Bディッパーズ七名で参加しました。雨がふっていてとてもむし暑かったです。でも、夜には晴れて花火ができてよかったです。夏休みの宿題もみんなでしました。知らない子のほうが多かったけど、すぐに友達になることができてうれしかったです。

わたしのおじいちゃんが「スポ少で体をきたえ、ざ禅で心をきたえられる」と言いました。本当かなぁ？

来年は妹の百恵が二年生になるので、いっしょに参加できたらいいです。

現職研修会

九月十三日
第二教区慈眼寺
四十二名参加

〝祈りの道〟の企画運営にも関わられＳＶＡ（シャンティ国際ボランティア会）副会長でもある三部義道師に「坊さんになって楽しくてしかたがない理由」という演題でご講演いただきました。子供時代、友達から「お前んちは人が死んで金になるんか。」と言われたことがトラウマになりながらも、何百年とつなぎ、支え守られ続けてきた寺を自分の発想を生かして運営出来ることへのやりがい、生きがいを若い方々に語っていただきました。

午後からは本庁派遣講師である秋央文師をお招きして「坐禅会を始めるために・宗門の坐禅を広めよう」という演題で、「世界的にも坐禅がブームになっているのに近くの寺で坐禅が出来ない。」という不満がある中で、改めて坐禅会をはじめるにあたっての具体的なやり方を御講義いただきました。

最上町松林寺住職
三部　義道　老師

坐禅会を始めるために
秋　央文　老師

檀信徒地方研修会

十月十八日　第九教区昌傳庵　五十三名参加

秋田県月宗寺住職　袴田　俊英　老師

フォークグループ影法師の演奏会

　自死問題をテーマとして、自殺率の高い秋田県で平成十二年から自死防止のための活動〝秋田県ふきのとう県民運動〟の展開に長く取り組んでいる藤里町の月宗寺住職　袴田俊英師から「お一人様は時代遅れ・孤立しない地域をつくる」を演題としてお話して頂きました。自死は本人の孤立と苦しみから起きますが、残された人々の心にも大きな傷を残します。人は孤立の中では生きられません。自死問題をタブー視しない地域づくりの必要性を話して頂きました。さらに今成副所長兼人権主事から、自殺現場として知られる東尋坊で自死を思いとどまるように説得活動を続けている元警察官の茂幸男さんの紹介（ＤＶＤ）がありました。「自殺したらあかん！東尋坊の〝ちょっと待ておじさん〟」三省堂・参照

　今後も私たちの地域においても決して少なくないこの「自死」を無くして行くための活動を続けていきたいと思います。

檀信徒本山研修会

十一月十二～十四日　大本山永平寺　三十一名

　天候と紅葉に恵まれた二日間、三十一名の参加で永平寺、御誕生寺、那谷寺、恐竜博物館を巡りました。参加した方から「この度は永平寺本山研修に参加させていただき、すばらしい静寂の禅の世界を体験出来ました。また父母始め、先代のご供養も出来大きな安心を得ることが出来ました。」とのお便りも頂きました。また私たち宗門寺院として初心を保つべく、年に一度のご本山への参拝を心がけたいと思います。

大本山永平寺にて

福井県立恐竜博物館

御誕生寺　板橋興宗禅師と

教化センター四十周年記念事業
祈りの道

五月六日～五月十一日東北管区教化センター四十周年記念事業として「東日本大震災慰霊・復興祈願行脚〝祈りの道〟を東北八宗務所の僧侶一二六名による岩手側（北ルート）福島側（南ルート）五五〇キロの行程をリレー形式で行脚しました。当宗務所管内からもチーム置賜を中心に雨の中九名で参加しましたが今回参加したことで、網代傘での行脚姿は祈りの姿であり行住座臥の一つとして日々行じていくことの意義を改めて感じました。

『あん』上映会後援

十月三十日飯豊町町民総合センター「あ～す」にて、映画「あん」の自主上映会に対し、当宗務所もハンセン病問題への理解を深めるべく後援させて頂きました。

原作者のドリアン助川さんは若者たちの「社会の役に立たなければ生きている意味が無い。」との考え方に疑問を感じつつ、差別と隔離の中で一生を送らざるを得なかったハンセン病元患者との出会いからの「人はなぜ生まれ、どう生きるべきなのか」をテーマとした作品です。かつては、らい病と呼ばれたハンセン病患者に対する差別の歴史の中で、私たち曹洞宗は平成十三年六月二十八日　宗議会で「ハンセン病患者及び元患者とその家族及び親族に対する謝罪と人権回復と啓発活動に対する決議文」を発しました。そこには「…我が宗門では、一度として患者の側に立って国の非人道的政策に異議を唱えることはなかった。むしろ、悪しき業論による布教によって国民の意識の中に、偏見と差別意識を助長した、といっても過言でないし、慰問布教の名のもとにハンセン病患者・元患者の方々にあきらめを説いてきた歴史的事実がある。…このような「悪しき業論」によるハンセン病患者に対して無慈悲な所業をなしてきたことは慙愧に耐えない。…」とあります。この反省に立ちこれからもあらゆる差別を許さない啓発活動に取り組んでいきたいと思います。

全国人権擁護主事研修会

—長野県上田市にて—

十月十一日~十三日、長野県上田市にて開催されました。

今回のテーマは、「差別戒名について考える」でした。

初日は、部落解放同盟の方から部落差別や差別戒名についてのお話をお聞きしました。

表面上は何も無いように見えるけれども、現実にはいまだに無くなっていない部落差別や身元調査。

自分たちの集落の、ご先祖様の墓地にあった差別戒名がついている墓石は、今は移転して近くの寺に合同で祀られています。

「部落民」と言われ、住居も職業も制限され、亡くなってまでも戒名には使ってはならない字を当てて付けられるという人権侵害の差別を受けてきた人たち。

そして未だに結婚や就職等の時には身元調査され、部落民であるとなれば反対されたり不利益を被ったりしている現実があります。

研修では、被差別地区並びに差別戒名墓石の合祀墓を参拝しました。「革」や「僕」などの字がついており、亡くなってまでも差別されることに対して、同じ宗門の僧侶のしてきたことに深く反省すると同時に恥ずかしい気持ちが湧いて参りました。

このように、何の言われもないことによって差別されている方たちがいる現状は実に憂うべきことであります。差別は部落問題だけでなく、男女や職業、少し毛色が違うなどという理由の為にされたりするのです。

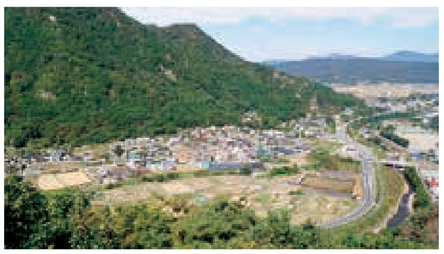
また、この他にも言われなき攻撃に「いじめ問題」があります。大勢で少人数を攻撃する実に陰湿で非人道的な行為であると思います。人の苦しみも分らず追い詰め、ひどいときには死に至らしめる場合もあります。

差別にしろいじめにしろ、学校では心の教育だの道徳教育だのと言って力を入れているようですが、一向に無くなりません。

こういった了見の狭さをどうしたら改善できるのかが今の時代の課題であると思います。

了見の狭い心は、自分自身の問題です。そして、それを教え育むのは家（親）・地域・学校などでもあります。夫々が懺悔して、今直ぐに利他行に目覚めていかなければなりません。

合祀された
被差別戒名の墓石。


山の麓の集落。
集落墓地に墓石はあった。

過去帳等の取扱い注意

—身元調査お断り—

曹洞宗は、「人権の確立・平和の実現・環境の保護」をスローガンに掲げ、「衆生済度」を願いとして生き、自分も他人も違わない「同事・同事行」を眼目として、自利利他の菩薩行に生きることを誓願としています。

現代は、文明が発達したと言われているにもかかわらず、部落差別問題をはじめとして未だにあらゆる差別事件が後を絶ちません。

そのような中において、お寺や住職が不本意にも差別に加担してしまった事件もありました。

寺院は過去帳をはじめとして個人情報を蔵している所でもあり、世の中にはそうした情報を求めて訪ねてくる人もおります。

先祖調べや家系図作成等について、お寺や住職が親切心でした行為が、不本意にもある人々や集団を傷つけたり人権を侵害したりする行為になった事例もありました。どうぞ過去帳等の取り扱いについては重々慎重にお願い致します。

教区長・護持会長研修会
―現代の葬儀事情を考える―

七月十一日～十二日、教区長と各教区護持会長を対象にした標記研修会を、飯豊町の「がまの湯」で開催しました。

講師には、第五教区の長井市草岡の洞松院住職小野卓也老師に、「現代の葬儀事情について考える」という演題で講話をお願いし、お話し頂きました。

米沢などでは、従来葬儀の時には導師と伴僧二人の計三人体制で葬儀を行うのが一般的でしたが、ここ数年は伴僧を一人にしてとか、葬儀を導師一人でお願いしたいとか言われることが出て参りました。

また、葬儀そのものを近隣にお知らせしたり新聞掲載もしたりせず、ごく内輪の身内の者だけで行う「家族葬」という形式の葬儀も出てくるようになりました。

以前ですと、御不幸があった場合は、親戚や近隣の人たちが集まり、食べ物やら香奠やらを持ち寄り、悲しみに暮れているご遺族の負担を少しでも軽減しようと、お知らせをはじめ葬儀の手伝いをしたりしたものです。

葬儀も、僧侶側は三人体制での古式に則り丁寧なお見送りを心がけていました。ただし、東京等は導師一人でする所がほとんどで、地域による違いはありますが…。

講義では、なぜ葬儀が三人等の複数の僧侶で行われるのかなど、お釈迦様の時代からの受戒作法等その根拠となるお話をお聞きしました。ご遺族も僧侶側もお互いに助け合う互助の姿がありました。

しかし、現代では「家」の解体、個人化等の社会情勢や、それに伴っての考え方にも変化が見られ、亡き人に対する送り方（葬儀等）にもいろいろな形が出て参りました。直葬・お坊さん便・送骨…。

また、これらに関する数々のビジネスと業者間の競争。

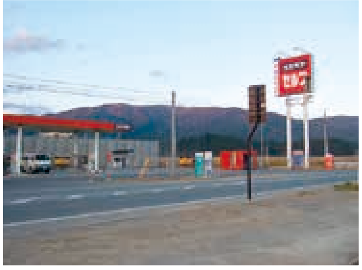
現代では、個人への思いの前に、より節約する方法や、他人との関わりも煩わしさもない手軽な葬儀方法を模索するような、合理的で古式に捉われない方法が重宝されてきているように思われます。

東北管区人権啓発研修会 ― 岩手県遠野市 ―

十月二十四日～二十五日にかけて、標記研修会が行われました。

はじめに釜石市の復興推進本部と社会福祉協議会の担当者から、東日本大震災の報告・現状と課題についてお話をお聞きし、その後バスで陸前高田市の現状を視察して参りました。奇跡の一本松で知られるこの街は、その一本松さえもが枯れてしまい、今ではレプリカで再現され残されています。

昨年までは近くの山から長大なベルトコンベアーで土を運び数メートルの高さまで盛土をしていました。今はコンベアーはありませんが、五輪会場問題が話題になる中、ここ被災地の復興はまだまだ進んでいないことを感じました。



右の赤い看板の上が
津波到達線

旧道の駅陸前高田。
松の倒木が未だ中に入ったままです。

四月十二日㈫　梅花流第四十六回奉詠大会

▼今年度は二六九名の参加をいただきました。▼第二部では、歌声喫茶「みんなでうたおう」のコーナーも。さらに宮城県の女性ボーカルグループ「JOYさくら」によるステージが公演されました。

五月十七日㈫～十九日㈭　梅花流全国奉詠大会

▼梅花流全国奉詠大会が富山市総合体育館で開催されました。▼一日目は黒部峡谷のトロッコ電車に乗車、新緑の綺麗な景色が私たちを迎えてくれました。▼二日目は登壇奉詠。当宗務所は「慶祝御和讃」をお唱えしました。今年度は登壇希望者全員での登壇となりました。▼最終日は加賀藩二代目藩主、前田利長公の菩提寺、高岡市の瑞龍寺様に参拝させていただきました。

1日目

トロッコの車窓から

平成二十八年度　梅花事業

四月十二日㈫
梅花流第四十六回奉詠大会
於　高畠町文化ホール「まほら」
二六九名参加

五月六日㈮
平成二十八年度
梅花流全国奉詠大会
合同練習会
於　千眼寺
二十四名参加

五月十七日㈫～十九日㈭
平成二十八年度
梅花流全国奉詠大会
於　富山市総合体育館
四十一名参加

五月二十五日㈬
宗務所梅花役職員会
於　宗務所二階　会議室
十二名出席

六月二十日㈪
師範・詠範講習会
於　赤湯温泉「森の湯」
二十二名受講

六月二十日㈪〜二十八日㈫　梅花流特派講習会

初日は師範さん詠範さんの講習会

十一月十日㈭　師範・詠範講習会

▼宮城県恵林寺住職　佐藤正明　師範

師範・詠範講習会が赤湯温泉「上杉の御湯御殿守」で開催されました。十八名が受講し充実した講習となりました。日々の小さな努力が必ずどこかで形になるということを佐藤正明師範から学びました。

2日目　登壇、天気にも恵まれ

3日目　瑞龍寺参拝

六月二十一日㈫〜二十四日㈮　梅花流特派講習会　A日程
兵庫県　永天寺住職
宮崎　浩明　師範
六月二十一日㈫⑥高伝寺
六月二十二日㈬⑧慶昌寺
六月二十三日㈭③耕福寺
六月二十四日㈮②慈眼寺

六月二十五日㈯〜二十八日㈫　梅花流特派講習会　B日程
石川県　豊財院寺住職
日下部哲也　師範
六月二十五日㈯⑤満福寺
六月二十六日㈰③永松寺
六月二十七日㈪①金蔵寺
六月二十八日㈫⑨真福寺

十一月十日㈭　師範・詠範講習会
於　上杉の御湯　御殿守
十八名受講

十二月八日㈭　梅花流特設検定会
於　赤湯温泉「森の湯」
三十八名受検

特設検定会合格者

十二月八日㈭

●助教合格者

一教区　西来院　金子裕泉

●三級詠範合格者

三教区　永松寺　昆　邦子

●三級教範合格者

三教区　高徳寺　大滝順子
三教区　高徳寺　中村徳子
三教区　高徳寺　牛谷由子
五教区　洞松寺　椎名静子

●大教導合格者

三教区　泉竜寺　大橋シヅ子

●権大教導合格者

一教区　自性院　後藤和子
三教区　善秀院　佐々木秀子
三教区　善秀院　井上悦子
三教区　耕福寺　村上福子
五教区　洞松寺　尾形眞理子
八教区　光岳寺　齋藤ミヨ子

●中教導合格者

三教区　宝昌寺　尾田けい子
三教区　耕福寺　佐藤ふみ
五教区　常安寺　鈴木よし

●権中教導合格者

三教区　宝昌寺　情野美和子
三教区　耕福寺　五十嵐瑞恵
三教区　耕福寺　岩崎久美子
五教区　満福寺　手塚タツ
五教区　蔵高院　山口美智子

●正教導合格者

三教区　瑞光寺　三瓶喜久
三教区　瑞光寺　鈴木すみ
三教区　瑞光寺　細谷典子
三教区　瑞光寺　菊地文子
三教区　瑞光寺　山木洋子
三教区　龍高院　小浅敏子
三教区　龍高院　平　久子
三教区　龍高院　松田正子
三教区　龍高院　小沼孝子
三教区　龍高院　安部あゆ子
五教区　瑞岩寺　今　礼子

●権正教導合格者

五教区　蔵高院　安彦和子

●教導合格者

三教区　宝昌寺　村岡紀恵子
三教区　宝昌寺　佐藤千秋
三教区　玉林寺　布施祥子
三教区　玉林寺　黒澤玲子
五教区　満福寺　鈴木よう子

新企画　突撃！隣の梅花講

宗務所ホームページで二月より新企画が始まりました。これから各講の紹介をして行く予定です。
閲覧方法はホームページの「突撃！隣の梅花講」からアクセスしてください。

管内の動き

（平成二十七年十二月一日～平成二十八年十一月三十日の出来事を掲載　※敬称略）

◎**晋山結制**

⑨長泉寺　菅原　延昭
平成二十八年　夏後安居（初会）

⑩玉泉寺　山口　卓道（舘山寺）
平成二十八年　九月十二日

⑧玉泉寺　齋藤　剛靖（龍正寺）
平成二十八年　十月十二日

⑧多福寺　齋藤　剛靖（龍正寺）
平成二十八年　十月十二日

◎**住職任命**

⑥桂岩寺　鈴木　良典
平成二十八年　二月十日

⑨高岩寺　山口　武揚
平成二十八年　三月七日

③寶昌寺　金原　良介
平成二十八年　三月二十九日

⑤金鐘寺　菅野　信也
平成二十八年　四月八日

⑥普済寺　昆　剛雄
平成二十八年　四月十五日

⑨正慶庵　中川　大悟
平成二十八年　九月十二日

◎**兼務住職任命（　）内は本務寺**

⑨普済寺　山口　武揚（高岩寺）
平成二十八年　二月五日

①洞昌寺　佐藤　祖公（慶昌寺）
平成二十八年　三月七日

⑨輪王寺　長谷川俊英（瑞龍院）
平成二十八年　四月十五日

⑩金松寺　越中谷恒道（松原寺）
平成二十八年　四月二十七日

◎**緋衣被着**

⑨長泉寺　菅原　延昭
平成二十八年　五月二十日

◎**黄恩衣被着**

⑩龍言寺　長澤　昭義
平成二十八年　九月二十六日

◎**住職勤続四〇年表彰**

②珍蔵寺　武田　俊邦
平成二十八年　十月一日

◎**住職勤続五〇年表彰**

①松岩院　佐藤　道雄
平成二十八年　四月一日

⑥長泉寺　大城　敬親
平成二十八年　十月一日

◎**住職勤続六〇年表彰**

①圓福寺　櫻井　智雄
平成二十八年　四月一日

⑧盤昌寺　大法　良典
平成二十八年　十月一日

◎**住職勤続六五年表彰**

①東泉院　幕井　梅拳
平成二十八年　四月一日

◎**転衣**

⑨茂林寺　對間　一仁
平成二十八年　六月十五日

⑤瑞岩寺　山川　昌孝
平成二十八年　八月十九日

◎**教師補任（昇等補任含む）**

⑤龍澤寺　梅津　昌一　一等教師
平成二十八月　二月三日

⑩龍言寺　長澤　昭義　権代教師
平成二十八年　八月一日

③千眼寺　鈴木　一志　正教師
平成二十八年十一月一日

②蓬莱院　鈴木　乾道　二等教師
平成二十八年十一月二十八日

◎**准教師補任**

③玉林寺　鈴木　栄子
平成二十八年十二月十六日

⑩鳳台寺　五賀　峰子
平成二十八年　五月二十三日

◎**得度**

①慈眼院　岩木　貞子
平成二十八年　二月十五日

③常光院　奥山　風雅
平成二十八年　八月十九日

②蓬莱院　吉田　壮太
平成二十八年　九月五日

⑥金鐘寺　松田　純泉
平成二十八年　五月二十四日

◎**瑞世**

②全城院　渡邊　康一
平成二十八年　一月十二日

③蓬莱院　鈴木　乾道
平成二十八年　九月七日

⑩瑞岩寺　山川　昌孝
平成二十八年　十月三十一日

◎**布教師等級補任**

⑤藏高院　三浦　信高　稟命一等　平成二十八年十月十四日

①西来院　金子　裕泉　令命二等　平成二十八年十月十四日

⑩松原寺　妻鳥　紘明　令命二等　平成二十八年十月十四日

◎**遷化（日付は遷化日）**

②永雲寺　武田　玉雄　平成二十八年二月　八　日

①慈眼院　岩木　信孝　平成二十八年二月　九　日

③寶昌寺　金原　東英　平成二十八年二月十六日

⑧龍正寺　齋藤　穆潤　平成二十八年三月三十日

⑩鳳台寺　五賀　良孝　平成二十八年十月十五日

管内役職員

曹洞宗山形県第二宗務所管内における宗務所布教師および青少年教化員が、平成二十八年四月一日付にて、選任されました。（任期二年）

◎**宗務所布教師**

②松林寺　杉沼　俊徹

⑤藏高院　三浦　信高

◎**青少年教化員**

①桃源院　英　祥元

②蓬莱院　鈴木　乾道

③永松寺　昆　剛雄

⑤満福寺　菅野　秀人

⑥桂岩寺　鈴木　良典

⑧洞泉寺　加藤　雄司

⑨正円寺　塚本　正憲

⑩洞松院　西山　隆道

①東泉院　石龍　克道

②金龍寺　大沼　智明

③大覚院　宇野　全尚

⑤金鐘寺　菅野　信也

⑧長福寺　新澤　和好

⑨正福寺　平岡　孝規

⑩禅透院　聖山　宗徳

新青少年教化員

金鐘寺住職　菅野　信也

本年度より青少年教化員を勤めさせていただく事になりました。第五教区白鷹町荒砥の金鐘寺菅野信也です。五教区では、兄の満福寺菅野秀人副住職と一緒に青少年教化員をさせて頂いております。数年前より子ども禅の集いのお手伝いはしていましたが、その重責を改めて感じています。今後ともご指導、ご鞭撻よろしくお願いいします。

お知らせ

●**冬期間業務時間**
三月三十一日まで
九時半～十二時

編集後記

数百年に亘るお寺の歴史と存在の生かし方が今こそ求められる時代にあって、非力な自分が心がけている言葉があります。「何かあった時に、これでいいのかと命に聞こうと思う。命が喜ぶことを一つずつやっていきたいと思う。」（沖縄大学元学長野本三吉氏）

新しい一年、いのち輝く年にしましょう！

鶏の声と共に！　（道）